

The number 1 is searchable

No.1をさがせ! #02

スイートアバランチエ+への情熱

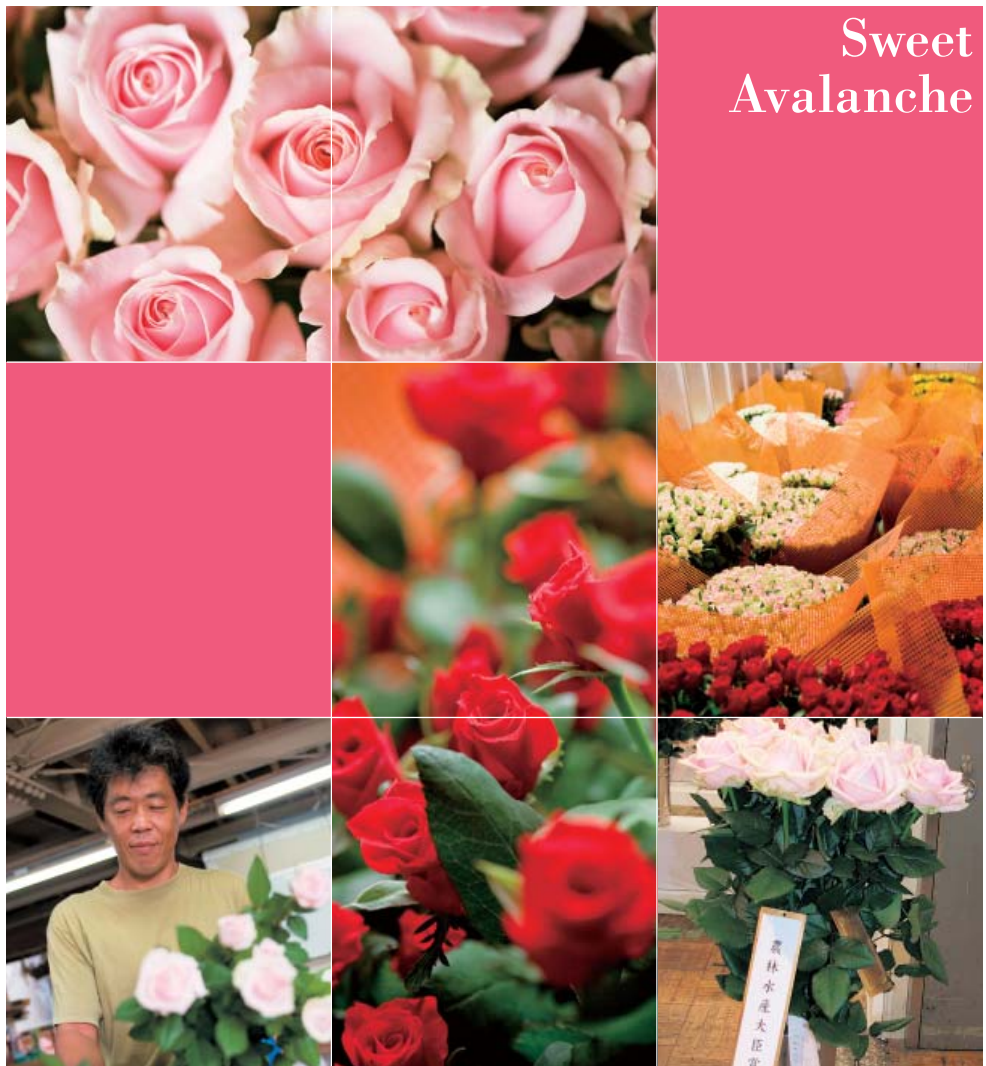


バラ作りへの情熱が花開き、 ピンクの大輪で最高賞を射止めた 山本修功さん

御坊市周辺はスイートピー、スターチスなど、全国有数の花きの生産地。この地域は若手の農業後継者が多く、国道から海沿いにかけてビニールハウスが並ぶ風景は圧巻だ。
今年、ここから新たなNo.1が生まれた。山本修功さん(38)が育てたバラ「スイートアバランチエ+」が、第51回日本ばら切花品評会で、最高賞の農林水産大臣賞を見事に射止めたのだ。満場一致で受賞が決まるほど高い評価を受けた。

山本さんは20年ほど前からバラ栽培を始めた。「バラは初期投資が大きいし、温度管理や土壌作りにはかなり神経を使う。最近では燃料代の高騰も厳しいね。でもバラ作りをやめようと思ったことはない。常連の先輩方がいる中で受賞できたのは本当にうれしい」。実は、父親の賢さんは有機土壌作りの名人。羊毛クズを土壌作りに使うなど、親子二代で創意工夫を続けながら栽培を行ってきたことが今回の受賞につながった。

山本さんは通信販売やアレンジなども手がけ、消費者との接点も多い。「バラはやっぱリブライダル需要が一番多い。今後もっとバラの幅を広げるために、僕がもっと前面に立つてもええかな、と思ってる」。はにかんだ表情の向こうに、バラへの情熱とチャレンジ精神があふれる。



1		
	2	3
4		5

1. スイートアバランチエ。ピンクの大輪スタンダードと呼ばれる種類。消費者の手元に届いたときにちょうど花が開くようにするため、出荷時はまだ完全には開いていない状態。顔を近づけると独特の甘い香りが鼻をくすぐる。2. ピンク以外にも山本さんが手塩にかけるバラは多種多様。この深紅のほか、黄、白などバラエティ豊かだ。3. 出荷を待つバラたち。この倉庫には約3500本。季節によって花の大きさは異なるが、撮影時は夏期だったため、やや小振り。4. 山本修功さん。5. 農林水産大臣賞受賞花。ピンクの大輪が見事。